

1. 研究人材の将来需給について

第1-1図 研究人材の将来需給推計(三菱総合研究所調査より)

- ・ 少子高齢化は、研究者と技術者の供給を減少させる反面、経済規模の縮小を通じて研究者と技術者の需要も減少させる。
- ・ しかし、産業構造の変化によっては、経済成長以上に研究者等の需要は高まるため、比較的緩やかな経済成長の場合でも、需要を満たす供給が得られない可能性がある。

- ・ 需要を満たす優秀な研究者・技術者の供給ができなければ、我が国が科学技術創造立国として発展していくことは困難。これまで以上に研究者等の質、量の充実が必要。
- ・ 社会ニーズに応える人材養成を行うこと、産業構造とのミスマッチを生じないようにすることも重要。

研究者の推計結果(総数の需給)

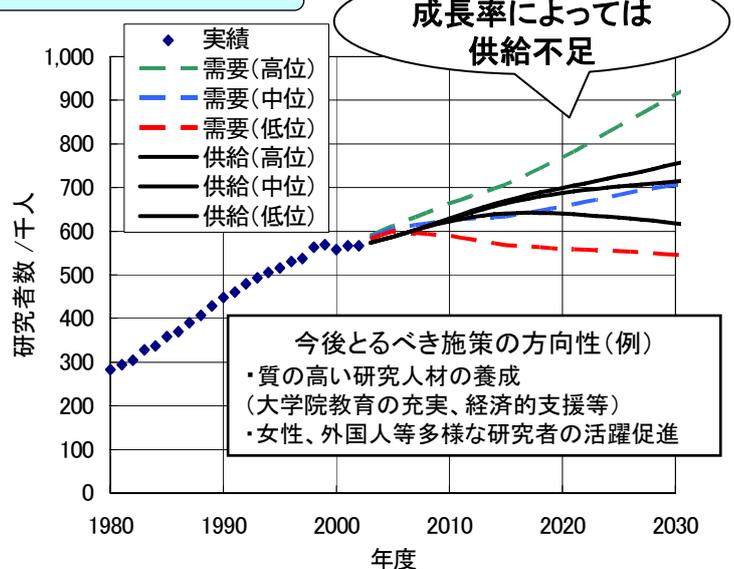
【需要推計】

生産年齢人口一人あたり実質GDPで、3ケース
 高位：2%成長
 中位：1%成長
 低位：0%成長

それぞれ計算して比較

【供給推計】

理系大学(院)の入学率で、3ケース
 高位：博士進学増加
 中位：入学数一定
 低位：入学率一定

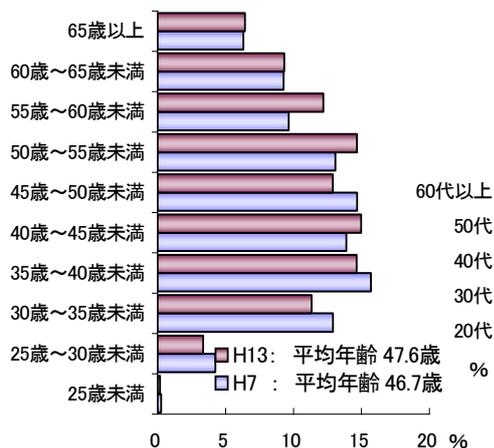


(資料)「研究人材の将来需給に関する調査報告書」(平成17年3月 三菱総合研究所)を元に作成

第1-2図 研究者の年齢分布(大学、民間企業)

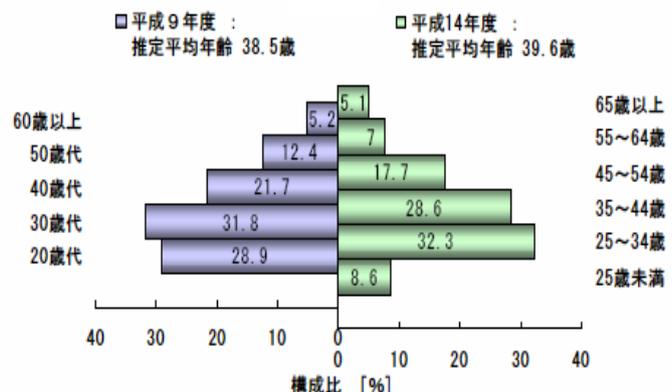
- ・ 大学教員の平均年齢は民間企業の研究者の平均年齢より高く、民間企業より大学の方が高齢化が進んでいる。(大学:平均年齢47.6歳(平成13年度)、民間企業:平均年齢39.6歳(平成14年度))
- ・ 平成13年度から10年以内に60歳を超える人数を見ると、大学では全体の26.9%、民間企業では全体の12.1%となっている。

大学教員の年齢構成



資料:文部科学省 学校教員統計調査報告
 出典:科学技術・学術審議会人材委員会第2次提言

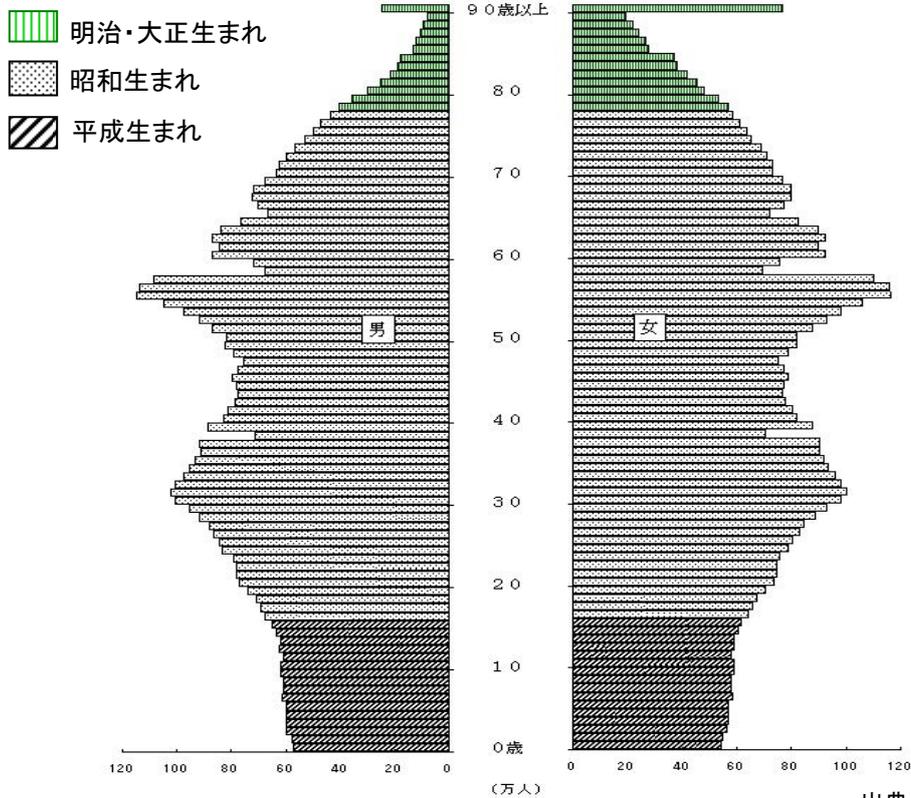
民間企業の研究者の年齢構成



資料:文部科学省 民間企業の研究活動に関する調査
 (平成14年度)

第1-3図 我が国の人口構成

我が国の人口ピラミッド(平成16年10月現在)



注) 90歳以上人口は年齢別人口が算出できないため、まとめて「90歳以上」とした。

出典: 総務省HPより

国立社会保障・人口問題研究所予測(中位推計)

